

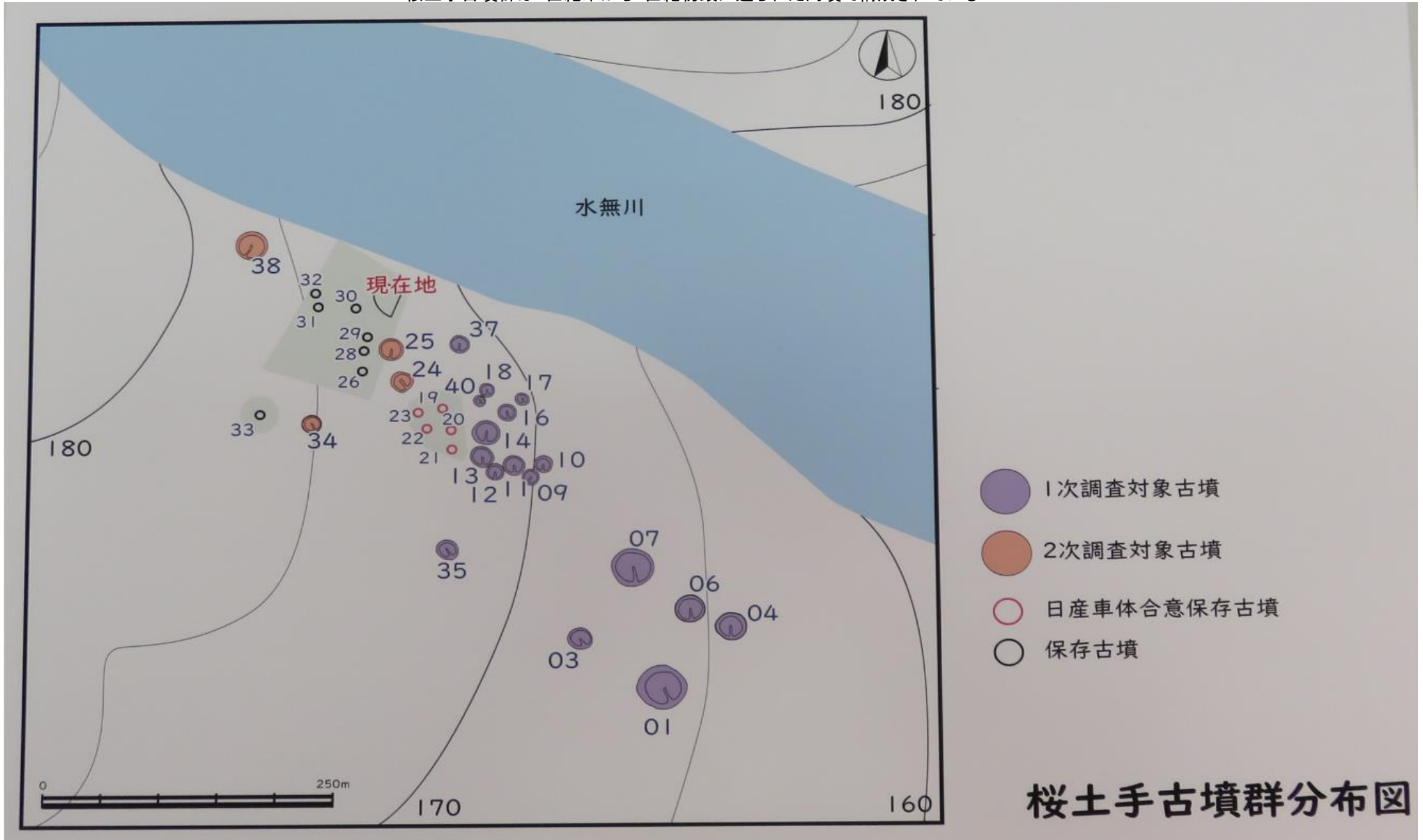
桜土手古墳群(秦野市)

桜土手古墳群全景/水無川南岸、東西500m・南北200mの範囲に分布する35基の円墳群



桜土手古墳群第1次調査空撮

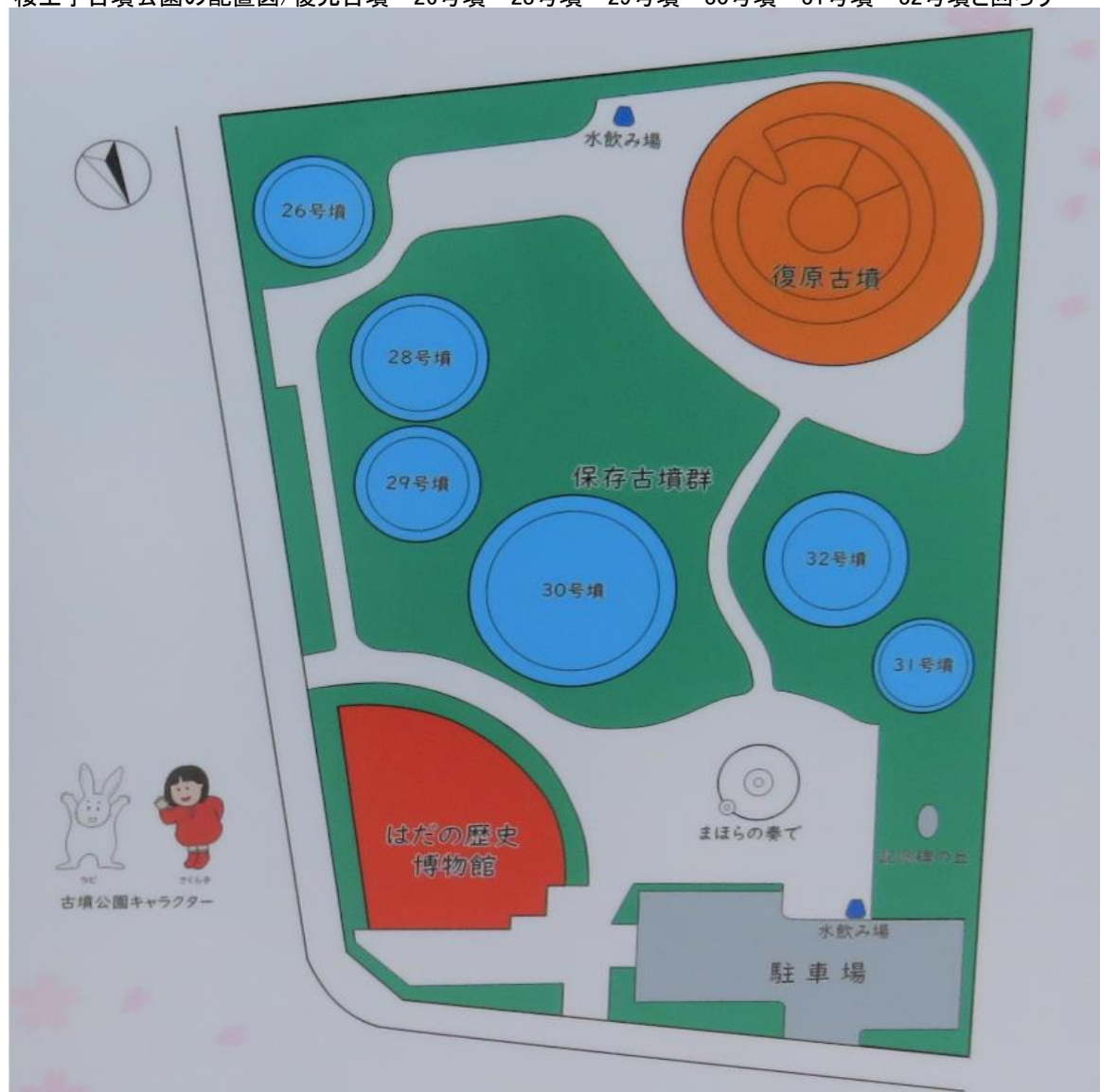
桜土手古墳群は6世紀末から8世紀初頭に造られた円墳で構成されている



ここは桜土手古墳公園/35基のうち23基は発掘調査後に消滅したが、桜土手古墳公園内には6基が保存されているほか、群中最大の1号墳が復元されている/手前はモニュメント広場



桜土手古墳公園の配置図/復元古墳→26号墳→28号墳→29号墳→30号墳→31号墳→32号墳と回ろう



これは東側から見た復元古墳(1号墳/二段築成の円墳/群中一番大きな古墳がモデル)

[video](#)



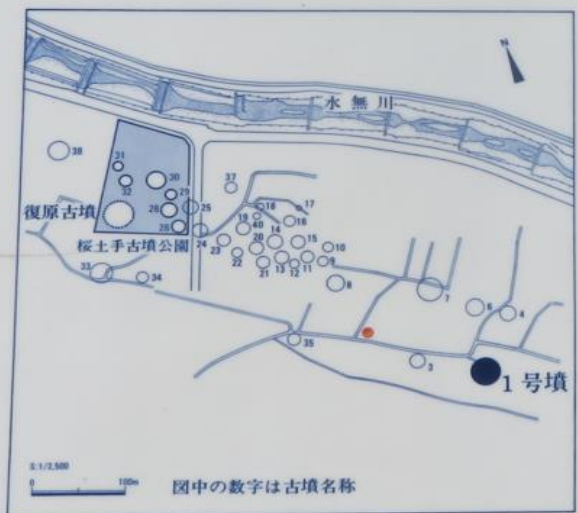
復原古墳

この古墳は、昭和49年（1974）に発掘調査した1号墳を、図面や写真をもとに復原したものです。径28m・高さ5.6mで、幅約5mの周溝をめぐらしており、桜土手古墳群の中で一番大きなものでした。

1号墳は、桜土手古墳群の一番南に、他の古墳とは少し離れて造られていました。



桜土手1号墳



位置図



調査前全景



同じく、北側から見たところ

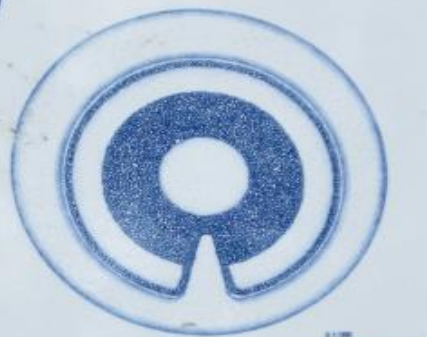
 video



古墳の復原

古墳公園では、造られた当時の古墳の姿や古墳の構造を見ていただくために、桜土手1号墳をモデルにして、古墳を復原してみました。復原に使用した石は、桜土手古墳に使われていた石です。

復原には、大型の機械などを使いましたが、機械のない時代の古墳の造営は、大変だったことでしょう。



桜土手1号墳復原平面図



古墳の造営（想像図）



古墳の復原工事



南側から見たところ/石室が復元されている

 video



横穴式石室前庭部から外護列石が一周している

[video](#)



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



前庭部から石室入口を見たところ



横穴式石室

古墳で最も重要な、遺体を入れる場所です。入口は石を積んで塞がれますが、それを開けることによって、何度も追葬することができます。

1号墳石室の石積みは、上にいくに従って少々狭くなり、その上に天井石を8個乗せています。その上を小石や粘土でおおい、石室内に雨水が入らないようにしています。

石室からは、壺などの須恵器や勾玉などの玉類、その他鉄製品などが出土しました。



1号墳出土遺物



粘土の被覆層



小石の被覆層



天井石の上面



石室

羨道部と玄室の明瞭な区別の無い無袖式の石室内部/前方が奥壁



石室内から入口方向を見たところ



石室の左手を見たところ/説明板が見える

[video](#)



桜土手 1号墳 墳丘のようす

1号墳は墳丘の中程に平らな面のある二段構造です。遠くから見るとお供え餅のような形をしています。そして斜面には、葺石かきいしといって河原石かわらが葺かれていました。古墳時代の人が見た古墳は、このような形だったのでしょう。



桜土手 1号墳

1号墳の墳丘上から大きな須恵器すゑきが発見されています。これには叩き割ったと思われる跡があり、埋葬儀式まいそうぎしの時何らかの理由で、割ったものではないかと思われます。



墳丘から発見された大甕



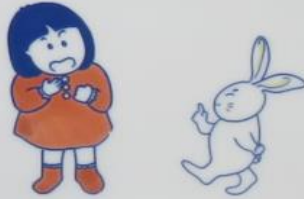
正面は「墳丘内石垣」と呼ばれる、石室を取り巻くように施された石垣状の石組みで、他の地域では見られない特異な構造だと云う

[video](#)



桜土手 1号墳 墳丘内部のようす

石室に積んだ石をしっかりと固定するために、石と土の間に砂利などを詰め込みます。これを裏込めと呼びます。



石垣状の石組

1号墳の墳丘の中には、石室を取り巻くように石垣状の石組みがありました。この石垣はとても立派に造られていますが、古墳が完成した時には墳丘の中に隠れてしまい、見ることはできません。同じものが7号墳にもありますが、これは他の地域の古墳には見られない特異な構造です。



裏込め



石垣状の石組


墳丘に登ってみる



石室の入口を見下ろしたところ



別の角度から

 video



さて、これは西側から見た26号墳/円墳





これは東側から見た28号墳/円墳



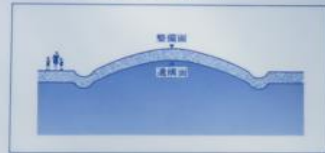
保存古墳

28号墳

径15.6m・高さ1.8mの円墳で、その周りを幅約1.7mの周溝がめぐっています。



古墳公園内の保存古墳については、保護のための盛土をし、ほぼ元の大きさに復原しています。



保存古墳概念図

古墳などの遺跡の大部分は地下に埋まっています。それを掘り出して調べる事を発掘調査といいます。

桜土手古墳群も発掘前は草木におおわれた小山でしたが、調査後、古墳群の様子が明らかになりました。



発掘前の桜土手古墳群の状況

これは東側から見た29号墳/円墳





これは東側から見た30号墳/円墳



桜土手古墳群 保存古墳

桜土手古墳群の古墳の数は、第一次・第二次にわたる発掘調査の結果35基であることがわかりました。

古墳は現在、古墳公園内に6基、日産車体内に5基、島津製作所内に1基、合計12基保存されています。

保存古墳

30号墳

径22.8m・高さ2.5mの円墳で、その周りを幅約1.7mの周溝がめぐっています。



桜土手30号墳(整備前)

これは東側から見た31号墳/円墳



保存古墳

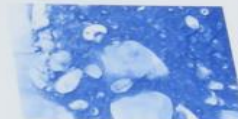
31号墳

径11.2m・高さ0.8mの円墳で、その周りを幅約1.1mの周溝がめぐっています。

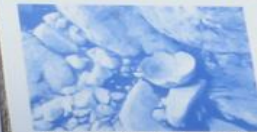


板土手31号墳(整備前)

埋葬の時に遺体といっしょに納める品を副葬品といいます。副葬品には、装身具・武器・馬具・土器など、その種類は多く、一つの時代の技術の水準を知るには最も有効な資料とすることができます。



1号墳 石室内玉類出土状況



1号墳 石室内須恵器・刀子出土状況

これは東側から見た32号墳/円墳



保存古墳

32号墳

径14.5m・高さ2mの円墳で、その周りを幅約2mの周溝がめぐっています。



板土手32号墳（整備前）

古墳の周りにめぐっている周溝は、古墳の立派な様子を強調するとともに古墳の境界を示しています。

葺石は、古墳の斜面に石を敷き並べたもので、古墳を飾るとともに、盛った土が流れるのを防ぐ役目もしています。



1号墳 発掘後の状況

さて、ここは併設されている「はだの歴史博物館」





はだのししていしせき
秦野市指定史跡



発掘調査当時(昭和50年)の桜土手古墳群

さくらどてこふんぐん
桜土手古墳群

桜土手古墳群は、^{みずなしがわ うが}水無川右岸
に広がる35基からなる県内でも
最大規模と言われている古墳群
です。

この古墳群は、6世紀末から
8世紀初頭に造られた^{えんぶ}円墳で構
成されており、^{よこあなしきせきしつ}横穴式石室とい
われる^{まいそうしせつ}埋葬施設を備え、^{そうしよくひん}装飾品
や土器などが^{ふくそう}副葬されていまし
た。

秦野市では、この貴重な文化財を広く紹介するため、平成
2年(1990年)11月に桜土手古墳公園と展示館を整備しました。

公園内には6基の^{ほぞん こふん}保存古墳と、桜土手古墳群の中で最大規
模を誇った1号墳をモデルにして新たに造った^{ふくげんこふん}復原古墳があ
ります。6基の保存古墳は、隣接する工場の敷地に保存され
ている6基の古墳とともに、昭和47年(1972年)12月に秦野市
の史跡に指定しました。

桜土手古墳群とは

秦野市堀山下字塚原ほかに所在する古墳群で、東西約500m、南北約200mの範囲に35基の円墳が確認されており、出土遺物から6世紀末から8世紀初頭の約100年間に構築されたことがわかっています。その多くは、葺石が残されており、墳丘径は1・7号墳の約28mが最大で、17・40号墳の約8.5mが最小です。

この1・7号墳の墳丘内には、墳丘内石垣と呼ばれる石積があります。この施設は、墳丘を造るにあたって盛った土が崩れないようにするための役割を担っていました。その他にも、土を盛り上げる前に土を削り取り、再び埋めて固める工事が行われており、古墳を造るにあたって様々な補強工事が行われています。

石室の形は、全て無袖式で、羨道部と玄室の明瞭な区別はありません。また、石室の長さは、7号墳の約7.5mが最大で、17号墳の約2.9mが最小です。

また、横穴式石室のほかに、古墳の周溝外に小竪穴式石室が合計9基確認されており、大きいもので6号墳の1.3×0.7mになります。古墳同様に墓ですが、成人の伸展葬用としては、小さすぎるため、成人の火葬あるいは二次埋葬のものと考えられます。



桜土手古墳群 1号墳



桜土手古墳群 24号墳

秦野市内の古墳・横穴墓

秦野市内の古墳・横穴墓

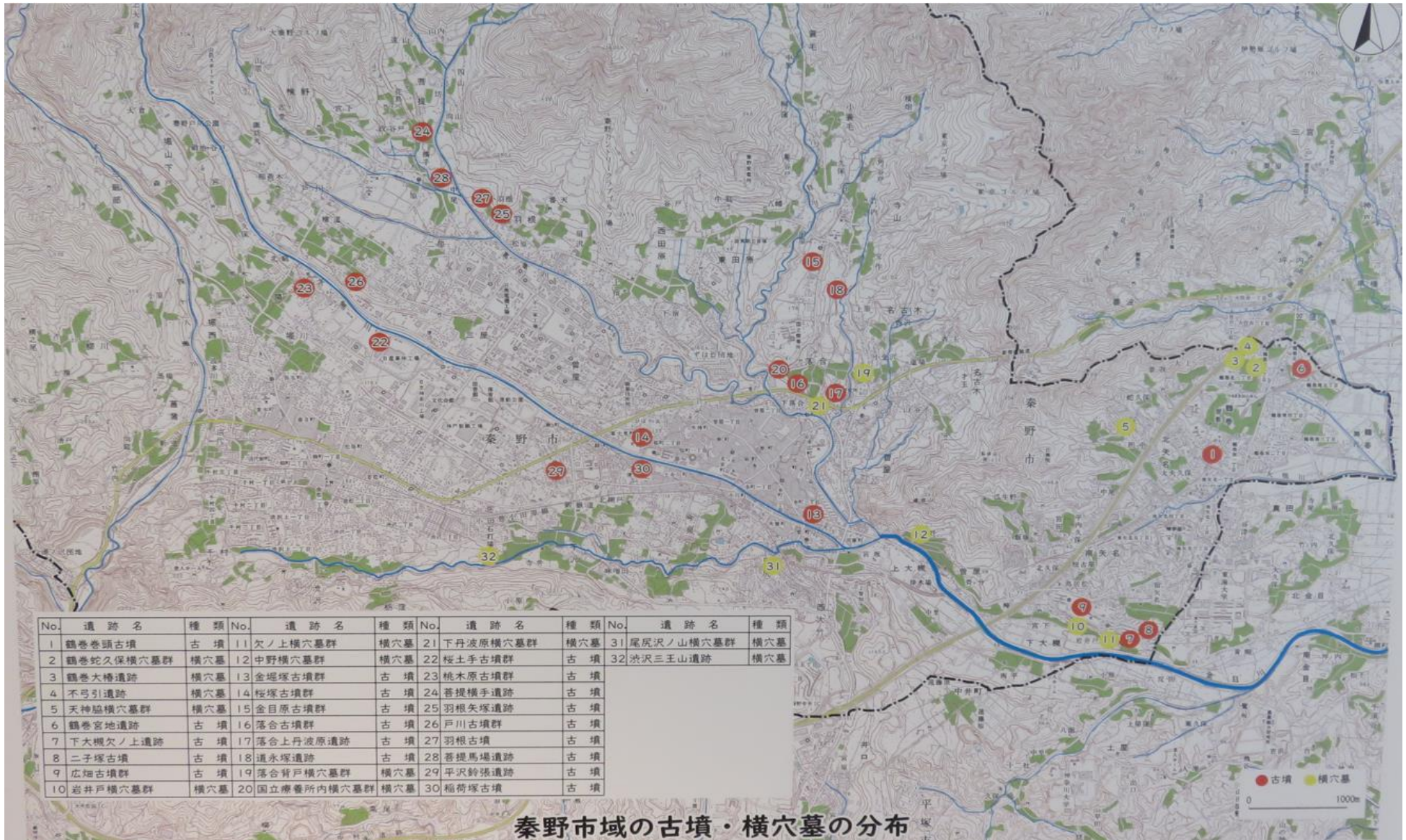
秦野市内には数多くの古墳と横穴墓が所在します。市内には、32遺跡が確認されており、下大槻に所在する二子塚古墳が唯一の前方後円墳ですが、その他は円墳や横穴墓になります。

古墳時代は、前期(3世紀後半～4世紀後半)・中期(4世紀末～5世紀後半)・後期(5世紀末～7世紀)に分けられますが、市内に所在する古墳は全て6世紀後半から7世紀にかけてのもので古墳時代後期に属し石室は横穴式の形態をもちます。また、横穴墓は、8世紀まで造られます。

二子塚古墳は、下大槻に所在する全長46mの前方後円墳です。平成22年(2010)の確認調査において、石室から装飾大刀である銀装圭頭大刀が折れた状態で出土しました。このような大刀は類例が少なく貴重であるため、二子塚古墳の被葬者は地域の首長(有力者)であったと考えられます。

横穴墓は、下大槻、落合、尾尻等の斜面地に立地し7世紀前半から8世紀に属します。岩井戸横穴墓群からは、鉄鏃、青銅製止め金具、玉類等が出土しています。墳丘をもつ古墳と副葬品の違いはなく、墓を造る集団によって異なっていたと考えられています。





秦野市域の古墳・横穴墓の分布

参考ホームページ

<https://kofun.info/kofun/60>

http://www.gregorius.jp/photogallery/page_b48.html

<https://massneko.hatenablog.com/entry/2015/01/14/205420>

<https://massneko.hatenablog.com/entry/2015/01/13/120000>

<https://pennihonshi.blog.fc2.com/blog-entry-1429.html>

